

『花を訪ねて：紫陽花』

南沢アジサイ山散策 (2022年6月23日(木))

写真：<https://youtu.be/tlBVncBQWVo>

ビスターリの例会で提案されていた武蔵五日市駅近くの「南沢アジサイ山」山行は、参加者が三浦さんと小生のみになった。梅雨のさなかで天候が安定していなかったため、三浦さんから「2人きりだから翌23日でもいいよ」とご提案があった。しかしいろいろ判断に迷ったが、結局翌23日に出掛けることにした。

案の定当日は曇りだが、雨はなさそうだ。平日なので、立川からの電車は通勤・通学の人で満員、しかし2駅手前の「武蔵引田駅」でどっと降りて、あとはがらがらになった。同じ車両に三浦さんが乗っていて、車内合流となった。五日市駅ではリュックを背負ったかなりの数の年配男女性も降りたが、彼らは南の方へ向かった。

9時に改札口を出て、北側の地下道を抜けて表へ出ると、女性が2名先を歩いて行くので、「南沢アジサイ山」だろうとついて歩くが、小生が遅いので離されてしまう。まあ道は分かっているから心配ないが。道は三内川に沿って進んでゆく。道路脇にはあちこちにアジサイが咲いているが、他には栗の花、ホタルブクロなどが咲いていた。道路脇、家の玄関前などに直径7~8cmの丸太の頭を尖らせて赤く塗り、その下に顔を描いた高さ1.5m位の棒があちこちに立っている。丁度「白雪姫と7人の小人」の小人を痩せ細らせたようである。これは深沢部落の「深沢小さな森の美術館」の作品とのこと。南沢アジサイ園の中にもあった。

穴沢天神社を過ぎ深沢部落への分岐を左に折れ、「あじさい橋」を渡ると道路の両側にアジサイが咲いているのだが、どうもおかしい、花数が少なく何となく元気がない。まもなく9時45分、アジサイ園の入口に到着した。入口で¥500の入山料金を払う。「今年は花数が少ない」からと、紫陽花の葉で作ったという甘みのあるお茶を一杯ごちそうしてくれた。入口すぐに地主の南沢忠一さんが笑顔で立っていて、皆さんに挨拶していた。我々は「Two Shot」をお願いした。南沢さんは池の緋鯉がご自慢らしい、前回よりも立派な緋鯉がかなり増えていた。

「アジサイ園」の入口から両側にアジサイが植えられた細い急な道に入る。濃い紫やピンク、などの色の花もあるが、大方は真っ白と青色の花だった。しばらく登ると東屋、ベンチのある休憩所に出た。ここに金毘羅山への「登り40分に対し下り25分」という急坂があった。左手の沢に沿った道を登る。東屋から先へは三浦さんに先行してもらい、小生は水分補給後途中までゆっくり登った。ここは右側は山側斜面で花は少なく、左側が谷側に下がっている傾斜地で、アジサイが多数植えられている。真っ白色と青色のアジサイが主体だ。この道の下の方から“ここまで10年”、“ここまで20年”という小さな看板があった。40年以上掛けてアジサイ畑を広げてきたという。道には木屑が敷かれているので、滑り難く、歩いてもクッションで柔らかいので気持ち良い。

令和元年6月に、「百万本の(バラならぬ)アジサイ」の加藤登紀子が植樹とコンサートをしたという「標柱」が立っていた。東屋へ戻ると、高年配の男女性10人位のグループが、脚の弱い男性がいるので、金比羅山まで登るのにどうしようとやっていた。またおばさんが「金比羅山に登るだけで、アジサイを見るわけではないから¥500を払いたくない」と罰当たりなことを宣っていた。これは私有地を通らせてもらうのだから、地主に従うべきだと考えるが、どうもそういう感覚はないらしい。

三浦さんが東屋まで戻ってきたので、休憩を取りながら予定を相談する。「瀬音の湯」へは、五日市駅前から12時32分にバスが出るので、それに乗れるように戻ればよい、今10時半だから小一時間余裕があると、東屋近辺を歩き回る。

11時10分に園の入口に戻る。ここには「シャトルバス」があり、10人位が待っていた(¥300)。我々は勿論見向きもせず歩き出した。12時少し前に五日市駅に着いたが、約30分の待ち時間ができてしまった、三浦さんはそれでも“水分補給”をせずにじっと待っていた。

「瀬音の湯」経由の上養沢行きのバスは定刻にやってきたが、小型のバスだ、走ってみて納得、狭いくねくね道だった。12時50分に「瀬音の湯」に到着、比較的最近改築した綺麗な建物だ。帰りのバスは15時なので約2時間ある。喉が渴いていたが、まず汗を流してからと、風呂に入る。駐車場に車が沢山停まっていた割には、風呂場は空いていた。お湯に浸かってビックリ、肌がスベスベになる。「pH10.1」と聞いて納得。かなりのアルカリ性だ。これは「美人の湯」ではなく、「美肌の湯」だ。(そう云えば、「つるつる温泉」も泉質pH 9.9のアルカリ性だ。)

無料休憩所、和食レストラン、カフェがあったが、レストランは満席。止む無くカフェで、ビールと軽食でようやく喉の渴きをいやすことができた、“三浦さんお待ちどうさまでした”。三浦さん、2杯目のビールの注文に使っていたプラコップを持っていったら¥400に割引きしてくれたと。今や「SDG'S」の時代です。

15時5分発のバスは定刻に来て、20分で五日市駅に到着。拝島、立川で南武線に乗り換え、三浦さんは登戸で小田急に乗り換えて帰っていった。

アジサイは花が終わったら必ず“剪定”をしなければならない。去年はその時強く剪定しすぎたのではないだろうか。そのため、今年は花芽ができない枝が多く、花数が減ってしまった。山の傾斜地で、しかも数が多いから選定作業は大変であろう。この剪定の手間暇を考えると¥500は納得できる。

以上 陽田



「深沢 森の美術館」の作品

「森の妖精: ZiZi」



種類の違うアジサイ



アジサイ園の中の道



南沢アジサイ山の斜面に咲く



純白のアジサイ



こちらも純白のアジサイ：「アナベル」



地主 南澤忠一さん



「Two Shot」-1



「Two Shot」 -2



加藤登紀子の記念植樹の標柱

花を愛する人々 夢のよう秋川溪谷

100万本の アジサイ音楽祭

2022.6.25.sat
会場: Live forest 自然村
【東京都あきる野市深沢 198 (最寄り駅: JR 武蔵五日市駅)
南沢あじさい山から徒歩 10 分で到達できます

時間: 12:00-17:30 (予定) ※雨天開催
入場料: 無料 (あきる野市民、または南沢あじさい山入山者限定)
※身分証明書か入山チケット提示をお願いします
出演: 加藤登紀子・Yae・新羅慎二 (湖南乃真 / 若旦那)
青柳拓次・辻コースケ・吉井盛悟 (稲本殿)
お囃子グループ (五日市市中・五日市中学校)

「百万本のアジサイ」下街づくりを!
加藤登紀子・Yae・雨澤忠一 (南沢あじさい山 主宰者)
高水健 (プロジェクト主催)・南嶋祐樹 (紫陽花育成技術継承者) ほか

主催: 株式会社 do-mo 協力: アースガーデン